
OB 通信

2009 年 No.3

(2009.7)

第 31 回北日本学生陸上競技対校選手権大会

- ・柳澤邦彦(1)が円盤投げで 43m53 の部記録樹立
- ・及川まりや(1)が女子 1500m で 4' 42" 51 の部記録樹立

北海道大学対東北大学定期戦

- ・男子 9 連覇・通算成績 40 勝 29 敗 1 分
 - ・白井孝明(4)が男子棒高跳で 4m70 の部記録タイ、大会記録樹立
 - ・男子三段跳で長谷川(M2)が、男子円盤投で柳澤(1)が、女子 3000m で及川(1)がそれぞれ大会記録を樹立
-

～目次～

・ 2009 年全日本学生陸上競技個人選手権	2 ページ
・ 第 31 回北日本学生陸上競技対校選手権大会	2～4 ページ
・ 北海道大学対東北大学定期戦	4～10 ページ
・ 七大戦の展望	11～12 ページ
・ 自己記録更新者一覧	13 ページ
・ 会計から	14 ページ
・ お詫びと訂正	15 ページ
・ 今後の予定	16 ページ
・ 編集後記	16 ページ

盛夏の候、会員の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

今号では、主に第31回北日本学生陸上競技対校選手権大会、第70回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦兼第22回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦の結果をお伝えいたします。

#2009 全日本学生陸上競技個人選手権(6/12~14) 於 平塚市総合運動公園競技場

6月12日から14日まで、平塚市総合運動公園において全日本学生陸上競技個人選手権が行われ、本校からは今泉卓真(4)がハンマー投げに出場しました。

出場した今泉の感想です。

～個人選手権に出場して～

今泉 卓真

日本学生陸上個人選手権、私にとって初の全国大会でした。東北インカレでは惜しくも2位でしたが、個人選手権の標準を切っていたので参加することが出来ました。全日本インカレとは違い、標準記録を切った選手のみが参加できるため、自分も全国レベルに一步近づいたなと感じました。

しかし、結果は散々足るものでした。49m70cm で出場者41人中33位。初めての全国大会に呑まれた、ただそれだけでした。練習投擲ではリラックスでき、50m を超えていたので調子自体は悪くはありませんでした。そのため、いつにも増して悔しさが残る大会となってしまいました。

この大会では全国レベルを肌で感じる事ができました。そしてこの規模の大会に慣れていかないと全国では戦えない、と言うことも同時に感じました。全日本インカレよりも標準が低いので多くの部員がこの空気・雰囲気を感じ、部に新たな風を吹かせて欲しいと思います。

#第31回北日本学生陸上競技対校選手権大会(6/20~21) 於 仙台市陸上競技場

6月20日から21日まで、仙台市陸上競技場において北日本学生陸上競技対校選手権が行われました。

例年よりも早い開催と、地元開催ということでたくさんの部員が出場し、一年生が健闘し、及川まりや(1)が女子1500m で、柳澤邦彦(1)が男子円盤投げでそれぞれ部記録を樹立しました。そのほかにも男子ハンマー投げで今泉卓真(4)が2位、男子5000m で斎藤純(M1)が4位、高橋理寛(1)が男子棒高跳びで5位、長谷川翔平(M2)が男子三段跳で5位、渋谷知暉(1)が10種競技で5位になるなどの健闘を見せました。

そして最後に女子4×400mR で東北大チームは好走を見せ、歴代3位となる記録を出しました。

以下は好記録であったものを抜粋して載せました。(赤字は部記録、太字は自己ベストです。)

■5000m

組	オーダー	氏名(学年)	記録	順位
決勝 2 組	4	齋藤 純(M1)	14'51"89	総合 4 位

■1500m

組	オーダー	氏名(学年)	記録	順位
決勝 2 組	2	及川 まりや(1)	4'42"51	総合 4 位

■4×400mR

組	レーン	氏名(学年)	記録	順位
決勝	-	土肥(2)・及川(1)・岡村(1)・須藤(4)	4'18"08	7 位

■棒高跳

氏名(学年)	記録	順位	4m30	4m40	4m50
高橋 理寛(1)	4m40	5 位	○	○	×××

■三段跳

氏名(学年)	記録	順位	1	2	3	4	5	6
長谷川翔平 (M2)	14m61	5 位	13m59(+0.2)	×	14m61(+1.6)	14m15(+0.2)	×	14m53(+0.8)

■円盤投

氏名(学年)	記録	順位	1	2	3	4	5	6
柳澤 邦彦(1)	43m53	3 位	42m85	×	41m87	42m57	41m56	43m53
今泉 卓真(4)	38m88	7 位	35m55	38m88	×	×	36m84	×

■ハンマー投

氏名(学年)	記録	順位	1	2	3	4	5	6
今泉 卓真(4)	51m58	2 位	○	◎	×	50m94	51m58	×

■やり投

氏名(学年)	記録	順位	1	2	3	4	5	6
杉本 和志(2)	60m25	7 位	×	57m62	59m01	×	×	60m25

■十種

競技

氏名 (学年)	100m	走幅 跳	砲丸 投	走高 跳	400m	110m H	円盤 投	棒高 跳	やり 投	1500m	順位
	(風)	(風)				(風)					
渋谷 知暉(1)	11"85	6m36	8m09	1m80	53"18	15"92	20m74	2m90	48m65	4'52"21	5位
	(-0.6)	(+0.5)				(+0.9)					
得点	681	666	372	627	674	742	286	333	569	605	-
累計	681	1347	1719	2346	3020	3762	4048	4381	4950	5555	-

藤井 翼(1)	11"94	5m94	8m67	1m65	54"47	17"94	25m12	3m30	37m20	4'54"62	6位
	(± 0.0)	(± 0.0)				(+0.8)					
得点	663	574	406	504	620	530	369	431	402	591	-
累計	663	1237	1643	2147	2767	3297	3666	4097	4499	5090	-

北海道大学対東北大学定期戦(7/4) 於 仙台市陸上競技場

当日の朝は雨模様でしたが、時間が経つにつれて持ち直し、午後には晴れ間が見えました。

男子が9連覇を達成。女子は2位となりました。大会記録が両校合わせて6つ誕生し、そのうち4つは東北大でした。男子三段跳で長谷川翔平(M2)が14m36、男子棒高跳では白井孝明(4)が4m70、男子円盤投で柳澤邦彦(1)が42m72、女子3000mでは及川まりや(1)が10'14"22という記録を残し、このうち白井の記録は部記録となりました。フィールド種目で圧倒的な力を発揮している東北大はトラック種目でなかなか点数を稼ぐことができずにいます。七大戦ではトラック種目でこの点数が重要になってくるでしょう。

トラック

男子 100m

- 1位 青柳 光裕(M2) 10"89(+2.0)
 3位 富樫 宏朗(3) 11"47
 6位 新沼 啓 (3) 11"91

直前のオープンの部で自己ベストの10"91を出した青柳、昨年度100m部内ランキングトップの富樫と急遽エントリー変更になった新沼の3人が出場した。

期待通り青柳がスタートからリードを広げ、50mほどで他の5選手を置き去りにした。別次元のレースを展開し、堂々の1位フィニッシュ。自己ベストを0"02更新した。富樫は前半こそ良い加速ができたと思われたが、中盤からの伸びに欠け他の選手と混戦のままゴールし3位。新沼はアキレス腱の不調が響き、振るわなかった。

女子 100m

- 4位 岡村 菜花(1) 13"82(+1.9)
5位 土肥加奈世(2) 14"45
棄権 房内まどか(1)

フライングでスタートが一度仕切り直しとなった。2度目のスタートはやや慎重になったか2人ともスピードに乗れず北大の3選手に先行を許す。中盤まで何とか食らいつつも、後半徐々に差が広がり、結局、北大に1~3位を独占させてしまった。

岡村が14秒を切るなど調子を上げてきたことは明るい材料だが、力不足は否めない。まずはしっかりと100mを走り切れるようにすることが課題であろう。

男子 200m

- 1位 八木 洋光(M2) 22"23(+3.3)
3位 鈴木 一輝(2) 22"63
4位 畠山 真慈(1) 23"21

大会記録保持者の八木が3レーンから、鈴木と畠山はそれぞれ5、7レーンからのスタートであった。

八木は肉離れを心配してか、ゆったりとしたスタート。徐々に加速しコーナーでリードを広げ、その貯金を守り1位でフィニッシュ。追い風参考だが好タイムであった。鈴木は外側の選手をコーナー途中で捕らえるなどまずまずのスタートを切った。しかし、後半失速し抜き返されて惜しくも3位となった。畠山は先に行われたオープン400mで体力を使い果たしたか、いつもの後半の伸びがなく4位でゴールした。

男子 400m

- 2位 柴田 智弘(4) 50"76
3位 高林 佑輔(2) 51"54
4位 遠藤 智之(3) 51"86

今シーズン、2度目の400mとなる柴田が3レーン、マイルでの安定感が出てきた遠藤は7レーン、怪我からようやく復調した高林が5レーンからのスタートであった。

スタートから100mは6選手ともほぼ同じペースで差がなかったが、バックストレートで柴田がギアチェンジし、北大のエース三上との先頭争いを繰り広げた。柴田は最後まで食らいついたが惜しくも2位となった。高林と遠藤は中盤でのスピードアップに対応できず苦しいレース展開となったが、最後まで粘りを見せしっかり3、4位をキープした。

女子 400m

- 4位 土肥加奈世(2) 65"07
5位 須藤 彰子(4) 65"54
棄権 房内まどか(1)

直前まで降っていた雨も止み、気温はやや低いもののみならずのコンディションであった。須藤は2レーン、土肥は7レーンからのスタート。

2人ともまずまずのスタートを切るが、バックストレートでの向かい風に苦しみスピードが上がらない。徐々に差をつけられるが、粘りの走りでなんとかついていきラスト100m。ラストスパートで前との差を詰め意地を見せたが及ばず、土肥が4位、須藤が5位となった。

男子 800m

- 1位 本間 亮太(3) 1'56"65
2位 辻川 優祐(1) 1'57"60
5位 土方 貴道(1) 2'02"57

序盤から本間が引っ張り、辻川、土方がついていく形になった。2周目に入ってから土方がペースを落とすも、本間、辻川はペースを維持し、両者のラスト勝負となり、本間が競り勝った。本間、辻川は自己記録を更新し、好調ぶりを見せつけた。

昨年から順調に力をつけてきた中距離陣は、七大戦でも上位入賞が十分期待できる。



800m で好記録を出した本間(左)、辻川(右)

女子 800m

- 3位 須藤彰子(4) 2'40"91
4位 荒木佳那子(2) 2'43"57
5位 小海麻美(3) 2'44"56

1周目は荒木と北大とが2位争いをし、75秒で通過した。小海、須藤がそれに続く。2周目、荒木は北大に引き離されて3位に後退。ラスト200m付近で小海が荒木をかわす。後方にいた須藤が徐々にスピードを上げ、ラスト100mで小海、荒木を抜いて3位でゴールした。荒木も意地を見せ、小海をかわして4位、小海は5位でゴールした。

2週目以降は身内同士の争いになったが、5月の東北インカレに比べ積極的に勝負を仕掛ける姿勢がうかがえた。

男子 1500m

- 2位 辻川優祐(1) 4'10"65
3位 尾形洋平(2) 4'11"18
6位 早坂達也(3) 4'23"63

早坂が800m付近まで先頭を引っ張り(400m65"、800m2'13)、3番手に辻川、5番手に尾形と、集団が縦に続く。その後尾形が仕掛けて前に出て、辻川も続く。2人は北大のエースに抜かれるが、辻川は尾形をとらえ、残り1周でスパート。2位でゴールした。尾形は一時辻川に放されたが、ラストで差を詰め、3位でゴール。早坂は終盤遅れ、6位でゴールした。

女子 3000m

- 1位 及川 まりや(1) 10'14"22 大会新
3位 永井 瑞希(M1) 10'46"86
6位 大淵 真波(M1) 11'38"65

前半は及川が先頭を引っ張り(1000m3'17)、北大のエースを引き離す。中盤以降、少し伸びが欠けたが、及川は独走となる(2000m6'44)。ラストで切り替え、そのままトップ(10'14"22)でゴールした。永井は先頭につくも徐々に離され3位でゴール。大淵は北大と4位集団を形成するも徐々に離され6位でゴールした。

及川は大会新記録での優勝だった。七大戦でも活躍が期待される。

男子 5000m

- 1位 大場直樹(3) 15'24"12
- 3位 平聖也(4) 15'58"70
- 5位 鈴木雄輔(4) 16'14"47

スタート直後から大場が飛び出し早くも独走態勢。北大が1人追いかけて、その後ろを平がひっぱる集団が追いかける。大場は1000mを2'55で通過。3000m手前で集団から平が抜け出す。雄輔は北大1人と4位争いをしたままレースを進める。大場は中盤、やや落ちたものの1位をキープし15'24でゴール。平はそのまま3位で、雄輔はラスト1周手前でかわされ5位でゴール。

対抗戦初出場だった雄輔は、初得点まであと一步と迫ったものの5位という結果に終わった。この経験をばねにステップアップしてほしい。

男子 110mH

- 1位 永井 雅人(D2) 15"62(+2.2)
- 2位 藤井 翼 (1) 17"65
- 4位 一ノ倉 聖(3) 18"17

110mHは好調の永井と北日本ICで復活した一ノ倉、怪我の岩崎に代わって混成専門の藤井が出場した。北大の出場者が1人おらず、対抗得点を稼ぐ大きなチャンスとなった。

一ノ倉がよいスタートを切りリードを奪うも、中盤でハードルを引っ掛け大きくタイムロス。ここで永井が先頭に立ち、そのまま1位でフィニッシュ。無難にレースをまとめた藤井が2位に入った。一ノ倉は最後に競り負け4位となった。

男子 400mH

- 2位 柴田 智弘(4) 57"48
- 4位 藤井 翼 (1) 59"99
- 5位 鈴木 貴幸(3) 62"49

400mで好走した柴田が4レーン、今シーズン初レースの鈴木は3レーン、400mHを始めたばかりの藤井が6レーンからのスタート。

序盤、鈴木と柴田が積極的に飛ばし、藤井は無難なスタート。柴田は若干足が合わず減速する場面もあったが、何とか2位でフィニッシュ。タイムもいまひとつであった。藤井は前半のスピードが足りず、やや差をつけられるが粘りの走りで4位に踏みとどまった。鈴木は大会準備の影響か途中で脚が攣ってしまい失速。60秒を切れなかった。

男子 3000mSC

- 1位 尾形洋平(1) 9'50"53
- 2位 阿部史滉(1) 9'56"94
- 4位 箭内正輝(3) 10'30"92

1年生の尾形、阿部と、この種目で得点を重ねている箭内が出場した。

スタート直後から尾形、阿部の二人が先頭を引っ張り、箭内はやや後ろの3位集団内でレースを進める。尾形、阿部は最初の1000mを3'15程度で通過した後、中盤ややペースが落ちるが、二人の先頭集団を崩すことなくそのままワンツーフィニッシュを決めた。箭内は中盤から後半にかけて苦しい走りとなるも、何とか4位で粘り、3名全員が得点を挙げた。

最初の種目として良いスタートが切れたと共に、1年生二人の活躍が光るレースだった。

男子 4×100mR

失格

鈴木一輝(2)-富樫(3)-畠山(1)-高林(2)

東北大が5レーン、北大が4レーンからのスタートであった。

1走の鈴木は非常に良いスタートを切り北大に少し差をつけ2走富樫へ。バトンパスもうまくいき良いスタートを切った富樫は若干差を詰められるもののほとんど並んで3走畠山へ。しかし、畠山のスタートが早く、2-3走のバトンパスでオーバーゾーン。失格となった。

七大戦までにバトンパスの精度を高めてもらいたい。

女子 4×100mR

2位 54"24

飛内(4)-岡村(1)-土肥(2)-須藤(4)

今大会も苦戦が予想される同種目ではあるが、七大戦につながるレースにできるかが焦点となった。東北大は4レーン、北大は5レーンであった。

1走、飛内はまずまずのスタートを見せるが、じわじわ離され2走へ。ここでバトンパスが乱れタイムロス。岡村も懸命に走るが差は縮まらず3走へ。ここでも再びバトンパスに失敗し、菊池は好スタートを切れなかった。3走菊池からアンカー須藤へのパスはうまくいったものの、北大との差は決定的で、なすすべなく2位となった。

バトンパスの精度を高めることも重要だが、一人一人が100m以上を確実に走り切れるようにすることが必要である。この状況が少しでも改善されれば記録は大幅に短縮できるだろう。

男子 4×400mR

2位 3'23"42

高林(2) - 遠藤(3) - 鈴木一輝(2) - 柴田(4)

この日、柴田は既に合計でトラック3周分のレースを終えており、鈴木も6種目目。疲れもピークに達するところであるが、勝って意地を見せたいところ。東北大は4レーン、北大は5レーンからのスタートであった。

1走、高林は北大とほぼ並んでレースを展開。終盤差を詰め、北大よりも先にバトンを渡した。2走、遠藤は終始北大をリードした。最後の100mも失速せず走りきり、ややリードを広げて3走へ。3走の鈴木は徐々に差を詰められ、200m付近でかわされた。後半粘るもバトンパスの時点では約5mの差になった。バトンを受けた柴田は快調に飛ばし、北大との差をじわじわと縮めた。残り100mで一気に差を詰め、抜きにかかったがわずか100分の1秒届かず、2位となった。

フィールド

男子走幅跳

1位 永井雅人(D2) 6m90(+2.9)

2位 鈴木一輝(2) 6m82(+2.6)

3位 安井 令(1) 6m21(+2.6)

東北大が独占。強い追い風の中での試技となり、記録もまずまずだった。

永井は強い追い風の中、うまく足を合わせて7m近いすばらしい跳躍をみせた。

鈴木は7m台の記録を持つが、最近では6m90前後で記録が推移。七大ではぜひ7mを跳んで表彰台に上がってもらいたい。

安井は大学2戦目であったが、まだ高校の頃の記録に遠く及ばない。これからの活躍に期待したい。

女子走幅跳

3位 菊地 亜加里(4) 4m82(+2.4)

4位 飛内 茜(4) 4m33(+2.8)

強い追い風の中での試技で、2人とも自己記録には届かなかった。菊地は1回目に4m82を跳び2位につけたが、3回目で3位の選手に逆転され3位となった。飛内は4m20前後を安定して出した。七大でどこまで記録を伸ばすかが、優勝または入賞するカギである。

男子三段跳

1位 長谷川翔平(M2) 14m36(+1.7)

2位 永井 雅人(D1) 13m77(+1.5)

3位 瀧澤 翔太 (3) 13m59(+1.1)

長谷川は5回目まで13m後半の記録だったが、6回目で跳躍がかみ合い14m36を跳び、大会記録を更新した。

永井は助走が合っているにもかかわらず、跳躍が低く、今一つ記録が伸びなかった。

瀧澤は思うような跳躍ができず、記録も伸びなかった。助走のスピードを跳躍に活かしておらず、今後の課題である。

昨年の七大戦で3位に入賞している瀧澤には、何としても調子を取り戻してほしい。

男子走高跳

3位 永井 雅人(D2) 1m70

齋藤 達(2) NM

永井は1m70を1回で跳んだが、その後の跳躍を止めた。齋藤は1m80から試技を始めたが、クリアできずに記録なしに終わった。この種目では北大に点数を8点持っていかれた。

女子走高跳

1位 菊池 亜加里(4) 1m35

3位 土肥 可奈世(2) 1m30

5位 房内 まどか(1) 1m20

菊池はなかなか練習を積めない中での試合であったため記録は1m35と低調であったが、堂々の1位。後の二人は走高跳初挑戦であった。今後の練習でさらなる記録更新を目指してもらいたい。

男子棒高跳

1位 白井孝明(4) 4m70 大会新

2位 高橋理寛(1) 4m30

3位 藤井 翼(1) 3m40

この種目は北大が全員棄権したために、3人での勝負となった。

白井は新調したポールを使い楽に試合を進め、自身のもつ大会記録をぬりかえた。4m70は自己ベストタイであるが、本人はまだいける感覚があるとのことなので、七大は大いに期待である。

高橋は公式練習で4m50を成功させたものの、試技では4m30を3回目でなんとか成功、4m40は跳ぶことができず4m30に終わった。

藤井はここ最近の試合で安定した跳躍を見せている。今回も3m40とまずまずであった。一年生二人も優勝もしくは入賞の可能性が十分にあるので、棒高跳は注目である。

男子やり投

- 1位 杉本 和志(2) 58m38
- 2位 伊勢 只義(M1) 49m51
- 3位 落合 裕規(4) 46m32

この種目も東北大が独占した。杉本は1回目にこの記録を出し、以降はファールを続け、6回目でも記録を伸ばすことはできなかった。伊勢はファールが無かったが、2回目の49m51以降は伸びなかった。落合も同じパターンであった。

全体的に後半の投擲での伸びを欠いた試合となった。しかし、学部生は七大戦で活躍を見せてくれるだろう。特に杉本は今年のチャンプであるので、狙ってくると思われる。

男子砲丸投

- 1位 柳澤 邦彦(1) 12m31
- 2位 今泉 卓真(4) 9m53
- 4位 長谷川 翔平(M2) 7m86

柳澤の本職は円盤投であるが、砲丸投でもなかなかの投擲を見せている。12m台は1回だったが、11m後半はコンスタントに出せられると思われる。

期待のかかっていた今泉はケガのため記録も伸びず、1投で終了。長谷川は7m後半を2回投げることができた。

女子砲丸投

- 1位 菊地 亜加里(4) 7m66

一昨年の七大で3位になった経験があるこの種目では、菊地が危なげなく優勝した。3回目に7m66を記録した以降は伸びがなかったが、北大が菊地を超えることができず終了。七大戦でも入賞ライン上に位置している。七大での活躍に大いに期待である。

男子円盤投

- 1位 柳澤 邦彦(1) 42m72 大会新
- 2位 今泉 卓真(4) 29m43
- 3位 長谷川翔平(M2) 25m53

小雨の中での競技となったが、新入生柳澤はそれをものともしない投てきを見せつけた。3回目に42m72の大会新記録をマークし、14年間ぶりに記録をぬりかえた。

今泉は脚の痛みから回転投法で投げることができず、記録を思うように伸ばすことができなかった。

長谷川はコンスタントに25m付近まで投げ、自己ベストまであと少しだった。

七大戦では今泉の3連覇あるいは柳澤の大会新記録での優勝が期待できそうな種目である。

男子ハンマー投

- 1位 今泉 卓真(4) 42m07
- 2位 柳澤 邦彦(1) 30m57
- 3位 稲田 和明(1) 20m28

やはり東北大の独占となった。今泉はケガの影響により1投で試技を終えたが、余裕の優勝である。柳澤はハンマー初心者ながらも30mを超えた。同じく初心者の稲田はまだまだ練習が必要か。

七大戦の展望

今年も七大戦の季節がやってきました。今回の会場は東京。1 日目のオープンとハンマー投げは大井陸上競技場、2 日目の本選は国立競技場で行われます。

今回の東北大陸上部の注目選手を紹介します。ただし筆者の主観で書いたものです。

・男子 110mH 岩崎辰哉(3) 一ノ倉聖(3)

昨年の大会では二人とも決勝に進出し点数を稼いでいる。岩崎に至っては何事もなければ3年連続の決勝進出は確実で、どこまで順位を上げられるかが勝負どころ。しかし度重なるケガに悩まされ続ける日々に、まともに出た試合は東北インカレのみ。ただそこは大事な時にしっかりあわせてくる岩崎なので本戦では元気姿を見せてくれるはず。一ノ倉は春先のケガからある程度走れるようになり、北日本インカレではケガ明けながらまずまずの記録を出した。そして宮城県選で自己ベストをマークし、準備は万端である。

・男子 400mH 柴田智弘(4)

前回大ブレイクし54秒台で3位になった柴田は、直前の宮城選手権で55秒台を出した(人生初である)。そして先日行われた北大戦のマイルリレーで48秒台のラップタイムをたたき出し、フラットレースの地力を上げていることを示した。何が起こるかかわからない七大戦、再びブレイクしてくれることと思われる。

・男子 800m 本間亮太(3) 辻川優祐(1)

今年一番元気があるのが、投擲パートと中距離。その中距離陣をけん引しているのが本間と辻川である。2人は北大戦においてともに自己ベストをたたき出し、春先からの好調を維持している。本間は56秒台に突入し表彰台も見えてきた。しかし七大戦でもっと記

録を伸ばし優勝をかつさらえるかもしれない。ここはかなり注目である。

・男子 5000m 大場直樹(3)

東北インカレでの快走や昨年の出雲出場など好成績を残している大場だが、七大戦ではなかなか記録を残せていない。だが今年の大場はかなり貫禄がついているように思われる。七大戦ではきっと勝利に貢献してくれるに違いない。

・男子走幅跳 鈴木一輝(2)

春先の肉離れから順調に回復してきている鈴木は今シーズン6m90台を3回跳んでいる。条件がよければ7m台も普通に跳んでしまうだろう。また4×100mRや4×400mRでの活躍も期待されており、ますます注目である。

・男子三段跳 瀧澤翔太(3)

七大戦直前の宮城県選で優勝した瀧澤は今回も表彰台を狙ってくるだろう。今年瀧澤は練習を昨年より多くこなしており、県選以上の活躍に期待されたい。

・男子棒高跳 白井孝明(4) 高橋理寛(1)

今年の棒高跳陣はかなり期待できる。白井は昨年のチャンピオン。しかも北大戦において自己ベストタイ記録4m70をマークし好調さをアピール。こここのところ調子がかかなり上がってきているためほぼ無敵状態である。

一年生の高橋は自己ベスト 4m90 であるが今年 4m50 が最高となっている。しかし七大会ではきっと奮起しさらに上を跳んでいくであろう。もしかしたら東北大のワン・ツーが見られるかもしれない。

・男子やり投げ 杉本和志(2)

昨年 1 年生ながら大会記録・部記録を更新した杉本は 60m 台を数回だしている。チャンピオンの意地をみせ、必ず 2 連覇してくれることと思われる。

・男子円盤投げ 柳澤邦彦(1) 今泉卓真(4)

今年の円盤投げは東北大のワン・ツーが確実とも言われている。柳澤に至っては大会記録を既に上回っており、どこまで記録を伸ばせるかが焦点となっている。

・男子砲丸投げ 今泉卓真 柳澤邦彦

現在 2 連覇中の今泉は今年も優勝候補筆頭である。そこに風穴を開けようとしているのがチームメイトの柳澤。北大戦において柳澤は 12m 台をたたきだし、優勝争いに絡む勢いだ。投擲王国東北大だからできることである。恐るべし。

・男子ハンマー投げ 今泉卓真

3 回目の登場である今泉は自己ベストを 53m 台まで乗せてきた。もはや他校に対抗馬はおらず、大会記録の更新が焦点となっている。ちなみに今泉は 3 種目 2 連覇中であるが、ここにきて柳澤が現れ危うくなっている。しかしこれは悲しいことではない。むしろ歓迎する事態である。2 人の勝負にも注目してほしい。

・女子 3000m 及川まりや(1)

今年女子 1500m や 3000m など部記録を連発している及川は、何事もなければ確実に点数を稼いでくるであろう。3000m においては表彰台もすでに射程圏内である。

・女子 走高跳 走幅跳 砲丸投げ

菊池亜加里(4)

毎年確実に入賞を収めている菊池は今年も必ず点数を取ってきてくれることだろう。標記の種目はすべて表彰台圏内にあり、及川と並んで女子の点数源となることは間違いない。

このように多くの選手が優勝、または入賞の期待がかかっています。7 月 25、26 日はぜひ応援にお越し下さい。お待ちしております。

自己記録更新者一覧(6/1~7/5)

• 100m

青柳 光裕(M2)	10"89(+2.0)	(北大戦)
佐々木 翔平(2)	11"56(+1.7)	(")
高林 佑輔(2)	11"72(+1.7)	(")
中野 一誠(M1)	11"90(+1.4)	(")
遠藤 智之(3)	11"59(+1.4)	(")
金子 勇介(4)	11"70(+1.4)	(")
鬼丸 涼(1)	11"98(+1.4)	(")

• 200m

遠藤 智之(3)	23"08(+1.7)	(北大戦)
----------	-------------	-------

• 400m

柴田 智弘(4)	50"64	(北日本インカレ)
----------	-------	-----------

• 800m

本間 亮太(3)	1'56"65	(北大戦)
辻川 優祐(1)	1'57"60	(")

• 1500m

辻川 優祐(1)	4'06"68	(北日本インカレ)
尾形 洋平(2)	4'10"04	(")

• 3000m

鈴木 雄輔(4)	9'25"79	(仙台市長距離記録会)
----------	---------	-------------

• 3000mSC

阿部 史滉(1)	9'56"94	(北大戦)
島田 健作(M1)	9'28"28	(")

• 5000m

鈴木 雄輔(4)	16'05"00	(仙台大記録会)
尾形 洋平(2)	16'15"04	(")

• 円盤投げ

今泉 卓真(4)	38m88	(北日本インカレ)
----------	-------	-----------

• 10種競技

渋谷 知暉(1)	5555 点	(北日本インカレ)
八柳 暁(1)	4303 点	(")

#会計から

今回部費で新しく備品を買いました。

- ・棒高跳びのポール 1本
- ・やり 2本
- ・ボアコート 8着

こちらはボアコートの写真になります。会員の皆様、誠にありがとうございました。
これからもよろしくお願い申し上げます。



被写体は会計の早坂です

#お詫びと訂正

前号で日本学生ハーフマラソンの記事の中に女子の記録がありましたが、昨年の記録であり、今年記録ではありませんでした。以下に正しい記録を掲載します。お詫びして訂正いたします。

■女子ハーフマラソン

氏名(学年)	記録	順位
永井 瑞希(4)	1°24'38"	5位
小海 麻美(2)	1°27'59"	8位
大淵 真波(4)	1°28'53"	?位

#今後の予定

7月 25~26日 七大戦 国立競技場、大井 ほか

#編集後記

現副務がOB通信を書くのも、本号と七大戦後の次号を残すのみとなりました。今回のOB通信の写真の数が少ないのは、北大戦では撮影する時間があまり取れなかったためです。七大戦ではこれまでどおりにしたいと思います。

七大戦前なので、この大学に来てから思ったことを一つ。去年もそうでしたが、この大学は(ほかの6大学も?)、七大戦前になるといつもよりやる気が3倍位になっている気がします。北大戦とかやる気なさそうにしている人でも七大になるとなぜかやる気満々。これはやはり血筋なのでしょうか。疑問です。

文責 副務 新沼 啓 千葉 絵里子